

■ 公開シンポジウム

これからの地域と学校の関係性を考える －秋田での取り組みを踏まえながら－

第二次安倍内閣において、地域の衰退が問題となり、「地方創生」が政策の重要課題となって久しいものの、首都圏を中心とした大都市部への人口集中と、地方での人口減少の進行には未だに歯止めがかかっていません。中でも、秋田は全国一の人口減少率となっており、深刻さの度合いが大きくなっています。「全国学力テスト」における小中学生の学力が全国トップレベルを維持し続ける一方で、秋田が長年取り組んでいる「ふるさと教育」は心の教育やキャリア教育など、多様な要素を持ちつつも、郷土を支える人材の育成を目指してきました。

教育政策として、コミュニティスクール化が努力義務とされ、地域学校協働活動、地域教育コーディネーターなどが次々に打ち出される中で、学校が地域によって支えられる体制づくりが進められています。また、東日本大震災の被災地では、学校やその教職員が主体的に地域の復興に関わり、それを教材化し、子どもたちが地域復興の主体となっていく「〇〇ふるさと科」などの取り組みが進んでいます。「地域に支えられる教育」だけでなく、「地域を支える教育」、そして、「地域と共に歩む教育」「地域と共にある教育」が求められていると言えるでしょう。

本シンポジウムでは秋田での取り組みを踏まえながら、地域と学校の関係の今後のあり方を考えます。五城目町では地域おこし協力隊の取り組みが進んでおり、五城目小学校の関わりが報告されます。東成瀬村は県内でも学力の高さで知られるところで、その中での地域と連携した教育の取り組みが報告されます。石沢真貴秋田大学教授からは、社会学の立場から、秋田の地域が置かれている状況や地域おこしの取り組みについて報告されます。梅澤収静岡大学教授からは、ESDの観点から、地域と学校との関係性について報告されます。

コーディネーター 兼 司会

・佐藤修司（秋田大学）

スピーカー

・大沼一義校長（東成瀬中学校）

「東成瀬中学校における取り組み」

・松野紳一校長（五城目小学校）

「五城目小学校における取り組み」

・石沢真貴（秋田大学）

「秋田県における地域コミュニティの現状と課題」

・梅澤 収（静岡大学）

「地域・学校づくりをESD for SDGsの観点で考える－大学の役割を問いながら－」

【日時】2019年7月6日（土） 14:15～17:15

【会場】秋田大学60周年記念ホール（教育文化学部3号館）

【共催】日本教育政策学会・秋田大学教職大学院

【後援】秋田県教育委員会・秋田市教育委員会

*当日参加も可能ですが、準備する資料の関係もありますので、できるだけ7月1日（月）までに、お申し込みください。ご氏名、ご所属をお書きいただき（様式自由）、jasep2019akita@gmail.com宛てにお送りください。参加費は無料となります。